

## 「湯之尾神舞」の伝承活動の取組

### 1 学校名

伊佐市立湯之尾小学校、伊佐市立菱刈中学校  
県立大口高等学校、県立伊佐農林高等学校

### 2 学年・人数

小学1年生から6年生 (計25名)  
中学1年生から3年生 (計7名)  
高校1年生から3年生 (計6名)

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

湯之尾神社「舞庭」・神社隣の集会施設 (9月初めから11月22日まで)

#### (2) 発表の場所・日時

湯之尾神社「豊祭」の日に奉納 (毎年11月23日)

※その他、イベント等に出演依頼があった時 (平成23年度は4回)

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

#### (1) 名称

湯之尾神舞 (ゆのおかみまい) ※県指定無形民俗文化財

#### (2) 由来

神舞とは、国生みや天岩戸といった神話をモチーフにした演舞のことで、神楽 (鹿児島県では神舞) と呼ばれている。湯之尾神舞の起源の詳細は不明だが、室町時代の後期と推定され500年以上の歴史がある。神楽は宮廷の御神楽と民間の里神楽に大別される。湯之尾神舞は里神楽に属し、肥後と日向の両国にまたがる九州中央山岳地帯の高千穂を中心に伝承された神楽で、日向地方の影響を受け伝わったと言われている。湯之尾郷中の人々が、五穀豊穰・無病息災を祈願するため、旧暦霜月満月の夜、夜を徹して35番演舞奉納されていた。現在では26番が継承されていて、11月23日「豊祭」の日に奉納している。

#### (3) 構成等

現在、継承されている26番の舞は一つ一つの舞が異なり、舞人も小学1年生から60歳代までと幅も広く、舞によっては1人の舞、2人か4人での舞、最大7人の舞まであり、持つ道具や装束もそれぞれ違っている。舞人・楽人を合わせれば60人程になる。

### 5 保存会や地域との連携の具体

神舞は構成等が多種多様で、現在は保存会を中心とした取組になっている。教職員や児童生徒、保護者を含め地域の協力のもと、地域ぐるみで実施されている。

保存会は幅広い人々が参加していて、先輩から後輩へと伝承する形式をとっている。練習時の挨拶 (来たときの挨拶・練習を始める時・終わる時の挨拶等)・履き物のぬぎ方等、家庭で経験できないようなことも先輩達から伝えている。夜の練習でとなりますが、保護者の方も喜んで協力していただいている。

小学1年生になったら「花舞」と言う神舞を舞うことができることを、児童本人だけでなく保護者や祖父母、地域の方々も楽しみにしている。

また、奉納当日は午後4時から翌日午前1時ぐらいになるため、夜食の準備等は地域ぐるみで行っている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

小学1年生はできるだけ神舞に参加して興味をもつことによって、その後自発的に参加する児童が増えている。

また、幼少期に参加したことで、神舞をしたという体験をもつ成人が協力体制を作り、練習や奉納等がスムーズに実施できている状況である。

## 7 取組の様子



神社奉納「花舞」



「踏み剣」練習風景



練習 打ち合わせ中



練習 指導中

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

参加児童： 練習は大変でしたが、奉納の時、装束を身につけると気が引き締まって上手に舞ができました。終わった時、見ている人から沢山の拍手をしていただき大変うれしかったです。また、参加したいと思いました。

保護者： 自分が小さい頃は、「舞」をしたくてもなかなかできなかったです。子ど

もが参加できたことが誇らしく思えました。これからもできる限り協力していきたいと思っています。

保 存 会： 多くの伝統芸能保存会は人集めに難儀しているようですが、湯之尾神舞は参加したいという子どもたちが多い状況です。舞人の編成があるため編成も大変なのですが、子どもたちが多く参加してくれる状況は嬉しいかぎりです。

教 職 員： 伝統ある湯之尾神舞に参加させていただき、大変ありがたく思っています。仕事後の練習は少し厳しいと感じることもありましたが、子どもたちや地域の方々と一緒に汗を流す中で、心も体も磨かれた気がします。

また、子どもたちは湯之尾神舞を通して礼儀作法を学んでいます。湯之尾神舞をとおして、学校と地域、家庭が一体となって子どもを育てる理想の形だと感じています。